

## 児童生徒が参加・参画する熟議を充実させるためのポイント

学校運営協議会に児童生徒が参加・参画し、学校や地域の課題について大人と一緒に「熟議」し、解決に向かって連携・協働することは、児童生徒の地域・社会への主体的な参画意識を育てる重要な取組です。本号では、そのための重要な3つのポイントをお示しします。

### 1 熟議参加・参画の意義を共有し、必然性や有用性のある熟議テーマを設定する。

児童生徒が参加することが目的ではありません。児童生徒をなぜ参加・参画させるのか、どんな力を育てるために参加・参画させるのかについて、グランドデザインに基づいて参加者全員が共有することが大切です。

また、児童生徒との熟議に際しては、児童生徒自身が自分事としてとらえ、大人の意見を聞いて解決する意欲を感じるテーマを設定することが大切です。生徒会や児童会の協議を基に児童生徒自身から提案したり、学校評価を基にテーマを設定したりしている学校もあります。



### 2 事前に準備をしてから臨む。

児童生徒が事前準備もせずに熟議に臨んでも、参加・参画の意義を満たすことはできません。指導する教員とともに事前に十分に準備し、自分なりの考えをもって熟議に臨むことが大切です。児童生徒の考えを基にして、大人の意見を参考にしながら児童生徒自身が悩み、納得解を見い出していくような熟議にしていきましょう。自分の考えをまとめたメモやノートを持ち込んで熟議をするようにしましょう。



### 3 熟議で終わらせず、具現化する協働活動を行い、状況を報告する。

熟議した内容をすぐに整理し、課題の解決に向けた行動を起こすことが大切です。単発的な活動ではなく、地域連携カリキュラムに位置付け、事前・事後の学習を設定して行いましょう。また、具現化においては、児童生徒だけでなく、一緒に熟議した大人も本気になって協働する姿を見せることも重要です。そして、年度末には、その後の具現化の取組について報告し再び熟議するように努めましょう。